

日野原重明先生

100歳からのスタート

3

私が100歳になつたのは昨年十月四日ですが、それから九ヵ月が経ちました。その九ヵ月の間に私は「100歳記念」と冠された講演会を頻回につづけてきました。

最初の誕生日は自宅で家族だけで祝つてくれました。私は団長として「ジョン万次郎の足跡をたどるツアー」を率いて米国を訪問していたのですが、誕生日の前日に帰国、当日四日には聖路加看護大学の学生主催のバースデイ。そして十月八日(土)にはホテルオーラで、聖路加国際病院 聖路加看護大学、ならびに人間ドック同窓会主催の「百歳誕生祝会」があり、これには民主党の藤村修官房長官のご挨拶をいただき、聖路加交響楽団による音楽演奏で祝つてくれました。

その後、十月十七日には私が会長を務める「新老人の会」が毎年二回全国から会員を集めて開催するジャンボリーが三重県の「サンアリーナ」で八千人の参加者に祝つていただきました。この日の前日も「新老人の会」熊本支部主催の演劇「太平洋に架ける虹—ジョン万次郎物語」に晩年の万次郎役を私が舞台で演じてのとんぼ返りでした。これ以後、全国の三十九支部が主催するフォーラムはすべて「100歳記念」と題されるようになり、五月六日の山形市民会館でも「百壽記念講演会」。私は「逆風にめげず凛々しく生きる」と題した講演を行いました。

これからも元気に活動をつづけていくために、「一日三千三百キロカロリー、体重六十キロ(私の三十九歳のときの体重)を保持するように努めます。「これからは睡眠時間八時間、徹夜はやめるように」と家族から厳命されています。



(聖路加国際病院理事長・名譽院長)

ご寄付をいただきありがとうございました

1月～5月分

金額	名前
3,000,000	檜瀬 廣太郎様・青木 清治様
1,000,000	寺島 朝子様
500,000	徳田 春美様
450,000	聖路加国際病院ボランティアグループ様
390,000	鈴木 新一郎様
200,000	瀬良 裕一郎様・田川 ミッセル様・池田 富三様
150,000	長谷川 弓絵様
100,000	伊藤 太郎様・青柳 有伸様・野崎 威三男様・加藤 博子様・萩原 邦子様・馬場 彰様・小川 圭一様・橋本 セツ様・濱田 陽敏様・森 初枝様・小山 良一様
50,000	立て 一雄様・根守 雄様・岩岡 博様・石澤 敏彦様・三宅 泰子様・津澤 輝子様
30,000	福田 政文様・杉村 直珍様・込戸 武様・秋田 いつ様
20,000	黒澤 敏子様・打木 東紀子様・井上 秀子様
10,340	園田 さつき様
10,000	安藤 さだ子様・三嶋 健次様・板垣 幸子様
5,000	松澤 友香子様
合計	16,379,340円(上記他匿名43名含む)

皆様からいろいろなご寄付は、がん・救急医療・小児科・産科・心臓血管疾患などの分野に役立ててあります。「医療崩壊」と呼ばれるなど多くの問題を抱える日本の医療。「このようなくそ他院がしないことをする」という方針のもと、今後も幅広い領域で医療に貢献できるよう努めてまいります。

ご寄付に関しては、財務経理課 寄付係(03-5550-7063)までお問い合わせください。

Service & Action Information

聖路加健康講座

会場 聖路加国際病院2階 トイスター記念ホール
時間 午後6:00～7:15

入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。

2012年

7月24日(火)

がんと音楽療法

音楽療法士 伊藤マミ

8月28日(火)

口腔ケアについて

歯科口腔外科 川辺良一

聖路加健康講座とは？

聖路加国際病院の医師や看護師が講師となり、日常の健康生活のためのお話から最新の治療法まで、毎月様々なテーマで講演を行います。当院をご利用されたことがない方も、お気軽にご参加ください。

日程やテーマは変更になる可能性がございます。
最新の情報はHPにてご確認ください。

<http://www.luke.or.jp/about/approach/seminar.html>

詳しくは
聖路加健康講座で検索

聖路加健康講座

検索

ご自由にお持ちください。

St. Luke's

vol. 18

聖路加国際病院広報誌
セント・ルーカス

P5 特集 血液がんのスペシャリスト——血液腫瘍科
周麻醉期看護師のご紹介

P6 聖路加国際病院附属クリニック聖路加メディローカスのご案内

<http://www.luke.or.jp>

St. Luke's International Hospital

病院名は、キリスト教徒で医者の守護聖人とされる聖ルカにちなんで名づけられました。



聖路加国際病院

〒104-8560 東京都中央区明石町9-1 TEL.03-3541-5151(代)
<http://www.luke.or.jp>



部長 森慎一郎

患者さんが困ることのないよう、緩和ケアや末期のケアも含めて最期まで診させていただくことがこの病院の良いところだと思います。

聖蹟かなではの強み

環していると考えられるため見つかったときには全身は広がっている。いわゆる「進行期」の状態になっています。そのため、早期という概念がありません。しかし、最近では健康診断で血液検査が定期的に行われるようになり、自覚症状や合併症が出現する前の段階で、慢性の白血病などが発見されるケースは昔に比べて増えています」（森部長）。

白血病というと、以前は「治らない病気」とされていました。しかし最近では治療法が確立され、治療成績は格段に上がっています。特に、小児の白血病では治癒率は9割ほどと高く、白血病と診断されたお子さんのうち、約7割が成人に達するようになるといわれています。

準的な治療法は
を与え得る重要
性をいかにコント
ロールするかと
いうことです。

急性白血病の治療例

盲解導入療法

全身の血液中や骨髄中にがん細胞がいる状態（「完全寛解」）をめざして化学療法をします。】か目程度。

地圖地圖地圖

血液学的に寛解が得られても体内には癌細胞が残っています。残ったがん細胞を減らす治療法として、免疫療法があります。

1

強化・維持療法

1

経過観察

療だけではなく、退院後の外来診療も含めて、1人の患者さんに継続的にかかわり、経過をフォローさせていただくので、患者さんにとって安心なのではないでしょうか」と説明します。



全身放射線照射をおこなう部

全身放射線照射をおこなう部屋

血液がんの専門家が、各科の専門家と連携し、必要なときに必要な選択肢をすべて提供。

2011年10月にオープンした血液腫瘍科では、血液のがん全般を扱っています。

聖路加ならではの総合力を活かして、全身の合併症の管理から心身の痛みのケアまでチームでトータル・ケアを提供し、検査から入院治療、外来のフォローアップまで、1人の患者さんを継続的に診ています。

年々治療成績は向上

年々治療成績は向上

国民の2人に1人は一生のうちに一度はがんにかかり、3人に1人はがんで死亡するという時代。がんは、全身の至る所に発症します。血液腫瘍科が扱うのは、造血器腫瘍、いわゆる「血液のがん」です。

血液には、白血球、赤血球、血小板という主に3種類の血液細胞があり、これらはすべて骨髄中の造血幹細胞が分化することでつくられています。骨髄内で、造血幹細胞ががん化したものが「白血病」、白血球の一種が分化してできた形質細胞ががん化したものが「多発性骨髄腫」。そして、白血球の一種であるリンパ球ががん化し、リンパ節などのリンパ組織で増える病気を「悪性リンパ腫」と言い、これら3つが血液のがんの代表です。

このうち、急性リンパ性白血病は小児に多く生じますが、血液のがん全体的には、他のがん同様に年齢を重ねるに連れて増える傾向があり、人口の高齢化とともに患者数も増えています。

「患者さんの数が増えていることと、分子標的薬など新しい治療法の開発、移植医療など、治療が高度専門化していることを受けて、経験豊富なスタッフが血液のがんに特化した専門治療を行う必要がある」と森部長は話します。

血清脂質と心

大手町から新しい聖路加がはじまる 聖路加国際病院附属クリニック聖路加メディローカス

2012年10月29日 大手町フィナンシャルシティ サウスタワーにOPEN

第一線で活躍するあなたのホームドクター 聖路加メディローカス

聖路加国際病院は創設(1902年)以来、その時々の社会動向や環境の変化、そして様々な医療ニーズを敏感にとらえ、次代の病院像を描きながら進化・発展を続けてきました。国際金融街として発展が期待される新しい大手町、そこを訪れる様々な国から来られた方々を含む様々な人々のために、聖路加のよき伝統を背景にしたプライマリ・ケアと予防医療を提供するクリニックを開業いたします。

会員制健康サポート

充実の人間ドック

3大疾患(がん、脳血管疾患、心血管疾患)を網羅する充実の健診メニュー。総合病院だからこそできるフルラインアップの人間ドックをワンストップで、年2回に分けて受診いただけます。

アフターフォロー

人間ドックの結果、経過観察や定期的なフォローアップが必要と判断された場合、聖路加メディローカスの外来にてフォローアップ可能な範囲については聖路加メディローカスでフォローいたします。また、専門的な診療・治療が必要と判断される場合には、聖路加国際病院を中心に、適切な医療機関をご紹介いたします。

身体機能確認・評価プログラム

ヒトの持つ本来の機能(Function)を向上させ、最高のパフォーマンスを引き出すトレーニングを提案し、アスリートから一般の方まで幅広く支持されているアスレティックトレーナーの専門組織と提携予定。医療者が医療面から人間ドック受診者の健康を診断するのと同じく、聖路加メディローカスでは、アスレティックトレーナーが身体機能の面からあなたの健康を確認・評価いたします。

最先端且つ受診者にやさしい検査機器

PET/CT、MRIなど高度な医療機器を設置。受診者に優しい健診を行うため、放射線の低被ばくにこだわった機種をご用意しました。

その他聖路加メディローカス会員特典

■24時間電話相談 ■会員エリアの利用 ■会員向け健康増進セミナーの開催

会費(個人会員)

※消費税込、法人会員・家族会員の会費は別途お問い合わせください。

入会金(一人当たり)	年会費(一人当たり)
1,890,000円	630,000円

外来診療

一般内科、婦人科 (会員以外の方もご利用いただけます)

日本を代表するビジネスセンターでの医療ニーズに対応するため、総合医による一般内科診療を英語および日本語で行うほか、女性オフィスワーカーに向けて婦人科の診察も行います。聖路加メディローカスで行う初期診療で専門的な診療、治療が必要と判断された場合には、聖路加国際病院を中心に適切な医療機関を御紹介いたします。

アクセス

東京都千代田区大手町一丁目9番7号大手町
フィナンシャルシティ サウスタワー 2階
東京メトロ 丸ノ内線 大手町駅 直結
JR各線 東京駅 丸の内北口 徒歩10分



聖路加国際病院附属 聖路加メディローカス 開設準備室
東京都中央区明石町9-1 TEL.03-5962-7234 (平日9:00~17:00)
HPアドレス <http://www.luke.or.jp/medilocus/index.html> E-mailアドレス medilocus@luke.or.jp



St. Luke's MediLocus

聖路加国際病院附属クリニック 聖路加メディローカス



身体機能確認・評価プログラム
イメージ



2012年4月、 聖路加国際病院に日本初となる 周麻酔期看護師がやってきました。

周麻酔期看護師ー

初めて耳にする方も多いのでは
ないでしょうか。

一体どんな役割を持った看護師なのか
ご紹介いたします。



全身麻酔中の術中管理の様子。聴診器で、患者さんの心臓や呼吸の音を聞きながら看視します。

「手術や麻酔を受ける患者さんのためにできることを増やしたい、麻酔科医師をもっとサポートできないか」という看護師たちの思いが、周麻酔期看護師誕生の背景にありました」こう話すのは、周術期センター長の宮坂勝之医師。

周麻酔期看護師とは、麻酔科専門医の指示・監督のもと、麻酔業務を補助する看護師のこと。今から2年前、日野原重明理事長の強い希望もあり、聖路加看護大学の大学院に周麻酔期看護学が取り入れられたのがその始まりです。

今回ご紹介するのは、吉田奏看護師。当院の手術室にて勤務の後、2年間の勉強を終え、周麻酔期看護師として帰ってきました。「周麻酔期看護師として知識も技能も増えたことで、患者さんにまた一步近づけた気がしています。患者さんの中で起こっていることは何なのか? 麻酔、そして看護師の視点、この両方の視点から患者さんに向き合えるところが良いところですね」と吉田看護師は、自身の強みを話します。

周麻酔期看護師の存在が患者さんの安心に

周麻酔期看護師は、看護師という立場から麻酔科医のあらゆる業務に関わります。麻酔科の医師の役割は大きく分けて4つ。まず手術前に、外来や病棟での診察で患者さんの全身状態を把握し、十分な説明を行い準備をします。次いで手術中の患者の安全を守る全身管理があり、これはよく知られている麻酔管理です。そして術後の痛みや不快感への対応、集中治療も重要な役割です。最後に外来や病棟での鎮静鎮痛処置への対応です。内視鏡、MRIや放射線検査処置などで患者さんが苦しまずには検査を受けられるようすること。これには無痛分娩への対応も含まれます。加えて勿論院内の患者の急変や心肺停止などの対応もあります。麻酔科医が担当するのは手術だけではありません。

「命と直結しているという緊張感を日々感じます。だからこそ、例えば術前の外来では、患者さんから聞くべきより詳しいことは何だろうか、と考えを巡らせます」(吉田看護師)

「患者さん本位の医療を提供するためには、手術室の中だけではなく、手術室の外、つまり術前・術後の患者さんの様子もしっかりと把握しなくてはいけない。しかしこれまでは麻酔科医だけでは十分に手が回り難いこともありました。しかし、吉田さんが加わったことで、患者さんの不安や苦痛により応えられるようになり、麻酔自体の質と安全性が上がることが期待されます」(宮坂医師)

「全身を見る」麻酔科医。そのサポートをする周麻酔期看護師。

麻酔科というと手術室にこもり麻醉をかける、外科の一部のような印象を持たれがちです。しかし本当は、麻酔科の医師とは急性期医療を行う総合診療内科医。患者さんのあらゆる苦痛に対応しています。痛みは身体だけのものではありません。実際に患者さんと会って話をし、心の痛み、不安もとりのぞいていく——「全人医療」を行なう麻酔科の医師と一緒にして、周麻酔期看護師は麻酔業務をサポートしています。

「周麻酔期看護師は、高次気道確保や呼吸循環管理、疼痛管理の知識と技能も持っています。複数の職種が麻酔、患者さんの全身管理に関わるようになったことで、安全性も向上し、患者さんへの説明にも十分時間をかけられるようになりました」と宮坂医師は話します。

「手術を受ける方は誰でも不安が強いもの。言葉からだけではなく、身体全体から感じられるものもあります。患者さんが本当に伝えたいことをきちんと聞いているだろうか。ゆっくりと時間をかけ、患者さんの不安を取り除いていくことを大切にしています」(吉田看護師)

「多くの方に周麻酔期看護師の存在を知ってほしいですね。聖路加が始めた周麻酔期看護師はこれからきっと増えてくるでしょう。手術や麻酔を受けられる方の安全と安心、そして医療の質の向上につなげていきたい」(宮坂医師)は今後の展望を話します。

「麻酔科の仕事として関わっていくべき分野はまだ多いと感じます。より麻酔の安全と質の向上を目指して、麻酔科の先生方と共に励んでいきたいと思っています」と吉田看護師は今後の展望を話します。